

2021年(令和3年) 5月30日 日曜日

7 経 済

オフィスの窓から

神谷繁



「神谷さん、この会社見てくれませんか」。金融機関や国の支援機関、そしてこれまで関わってきた中小企業などから、このような連絡をよくいただきます。

そこで、私が会社を見る最初のポイントを紹介したいと思います。そんなことを教えたら、商売にならないのではと心配なされる方もいらっしゃるかとと思いますが、「心配なへん、どうにかあります。」

よって、その答えは単純です。

会社の健康 診断し改善

まずその会社が「健康」か「不健康」か「重症」なのかを見ます。個人でも同じ事が言えますが、借り入れが多くてもその分収入も多ければ「健全」で、少なければ「不健全」だと言えます。

より細かく見ると、会社が抱えている借入金の中で、長期間で払って行かなければいけない借金を10年以内で払える財源があれば「健康」で、

10年を越えれば「不健康」、20年を越えれば「重症」となるわけです。

これはあくまでも目安ですが「不健康」または「重症」と判断したら、次に原因を探ります。借金が多すぎる「返済する力が弱い」といった問題点「が見つかれば、改善すべき」課題」として整理できます。

「どの辺で、どこが問題点なんだ」「ここを直していい」と何度か繰り返し取り組

んでいければ、「自分の会社はこういう会社になるんだ」という「目標」が「いや、こういう会社にするんだ」という「確信」に変わっていきます。

この診断は、企業の皆さんも意外とやっていないことなので、おすすめです。また、この目標は、きつと金融機関の融資担当者も持っていることでしょう。

私も銀行員時代に新規の融資先へ訪問した際に「社長、決算書を見せてくれませんか」と切り出し、「返済に難儀していますね。だいぶ前から厳しい状況が続いていますか」「資金繰り大丈夫ですか」と質問を繰り返していくうちに、「今後の改善策一緒に考えませんか」と提案していました。今も、企業と一緒に改善していく姿勢を大切にしていきます。

(県中小企業診断士協会会長)

今回は美崎信二氏(美崎牛本店社長)です。